

令和5年度 指定管理施設の管理運営評価表

担当室:福祉子ども部医療福祉総務室

1 管理運営の状況等

(1)施設名	名張市老人福祉センター「ふれあい」
(2)指定管理者 (名称、所在地)	社会福祉法人 名張市社会福祉協議会 名張市丸之内7-9番地
(3)施設の利用実績 (利用者数、事業内容等)	年間延べ利用者数 8,181人 開館日数 297日 ※5月6日:受変電設備更新のため休館 ※8月15日:台風接近に伴う対応のため休館 ※4月28日より浴室利用中止
(4)市支出額	指定管理料 26,071,000円 物価高騰対策支援金 1,333,154円
(5)管理運営の状況	①管理施設の管理運営に関する業務 ②生きがい活動、趣味活動、日常訓練及び入浴に関する業務 ③福祉バスの運行管理に関する業務 ④管理施設の設備及び備品の管理に関する業務 ⑤保健及び福祉等の関係機関との連携

2 提案内容の達成状況

(指定管理者から提案のあった項目の達成状況)

提案内容	達成状況
平等利用の確保、利用者サービス向上の取組	(1)新型コロナウイルス感染症の5類移行への取組 ●入館時 顔認証体温計、手指消毒の設置を継続した。体調不安な方への相談対応に応じるなどした。受付の飛沫防止シートは継続、職員のマスク着用も継続した。 ●施設管理・利用 施設の換気、温湿度管理、施設使用後の清掃、消毒を継続。教養娯楽室における飲食後のテーブル消毒は、利用者の協力を得て実施。湯茶提供を紙コップ対応とした。 カラオケルームは、空気清浄機能付き加湿器を設置、人数・時間制限のもと3月より再開。

平等利用の確保、利用者サービス向上の取組	(2) 利用者の平等な利用の確保 ・ビリヤード、ヘルストロン、マッサージ機、囲碁・将棋、カラオケなど施設内の限られた機器や設備をお互いが気持ちよく利用できるよう、職員が声掛けし、目を配り対応した。 ・自主的なサークル活動の日程調整をし、他の事業と重なることがないように、調整し活動を支援。 ・利用者の意見・要望の聴取のために意見箱を設置。職員は、利用者との日常的な関わりにおいて、利用者意見や要望を聞き出し、業務改善につなげている。 ・利用者の要望や意見を聞く機会「みんなで語ろう座談会」を月曜から金曜に実施し、全ての利用者からご意見をうかがう機会を持ち、利用の楽しみを増やし、利用促進が図られるよう努めた。 ・座談会の意見を受け、福祉バス利用者も参加しやすいよう、曜日別のカラオケ大会を実施することとした。 ・職員による対応の違いが生じないように、申し送りなどを徹底し情報共有に努めた。
	(3) 障害者・高齢者等への配慮 ・老人福祉センター「ふれあい」は、老人福祉法に則る社会福祉施設であり、65歳以上の高齢者はもちろんのこと、障害者等も利用できることから、より安心・安全な利用ができるよう対応している。 ・円滑な利用に資するよう、受付に職員を常駐し、検温、利用料徴収、利用者対応を実施。気軽に暮らしの不安や健康の相談に乗れるよう対応している。 ・入館時の記帳が困難な方には聞き取り代筆等を行っている。 ・利用者の平均年齢は高くなっており、足腰に不安がある方、物忘れがある方など、利用時も見守りが必要となる方が増加しており、利用時の継続的な見守りや声掛けを行っている。 ・利用時の見守りにより、必要があれば家族に連絡を取り、様子を伝えるといった対応も行っている。 ・必要時には、他の関係機関（地域包括支援センター、まちの保健室、生活支援室、介護保険事業所など）と情報交換を行うこととしている。 ・福祉バスのノンステップバス走行を実施。帰宅時に事前にアナウンスを入れ、乗り遅れのないように、施設内の確認と声かけを実施。
	【利用者の安全管理】 ・利用者用のシルバーカー、歩行器、車椅子等を設置。車椅子などの点検を行い、安全利用の確保を行っている。 ・浴室利用時に限らず、体調不良を訴える方（又は体調の悪そうな方）や普段の様子と違う方（元気がない方）等に対して、声かけ・相談、バイタルチェックを行い、本人同意のもと家族や専門機関への連絡調整や情報提供を行った。 ・血圧の自己管理ができるように血圧計を設置。 ・AEDの設置により、急変時に備えた。機器の定期点検を実施した。 ・総合福祉センターふれあいの消防訓練に参画し、消防設備の確認と避難誘導訓練を実施。災害時等に備え、ヘルメット、懐中電灯、屋外避難用スリッパを設置。
	【利用環境の整備・施設設備の利活用】 ・利用者が衛生的に施設や備品を使用できるように、清潔の保持に努めた。日常的な清掃とともに、アルコールや次亜塩素酸による消毒を時間ごとに実施した。 ・男性用トイレにもサニタリーボックスを設置。 ・利用者の買い物や昼食弁当持参に対応するため、食品保存用の冷蔵庫を利用いただいている。 ・ポットにお湯を沸かし、昼食のカップ麺など自由に使用できるようにしている。 ・お弁当の温めなどにご利用いただける電子レンジを設置。

施設効用の最大限 発揮(利用促進、利 用者増など)に向け た取組	(1)啓発 【利用促進】	
	・利用案内チラシは、毎月の介護保険証新規交付時に同封。送付された案内チラシを持参して見学に来られるなど、利用につながっている。 ・老人福祉センター「ふれあい」の事業紹介ポスターを作成、ふれあいフェスティバルで掲示。周知用案内チラシを配布。 ・市庁内動画モニター、FMなばりシティインフォメーションで、利用案内を放送。 ・利用の問い合わせに対して、施設理解を得るために見学していただき、その後の利用につなげた。 ・休館情報は、社協や市のホームページに掲載し、周知徹底を図った。介護予防事業の参加予定者には、個別の電話連絡により対応した。 ・利用者が現金を持ち歩くことを少なくするため、回数券をカード化した「ふれあいカード」を活用。利用促進のため、利用済みカードを応募券とし、月1回「お楽しみ抽選会」を行い、当選者には、1日無料利用券を発行するといった取組を行った。	
	(2)生きがい活動支援通所事業	
	みんなで語ろう会	5回実施（延べ74名参加） 利用者意見・要望を聞く座談会
	鑑賞会	映画会：毎月1週間（月～土）（延べ364名参加） 歌おう会：年3回（延べ48名参加） フラダンスとサックス：年1回（延べ30名）
	教養講座	スマホ教室：年2回（延べ17名参加） 防犯の講話：年1回（延べ30名参加） 救急救命講座：年1回（延べ18名参加）
	各種発表会	ビリヤード大会：年2回（計22名参加） カラオケ大会：2回（74名参加） 曜日別カラオケ大会：1週間（71名参加）
	自主サークル活動及 び趣味活動の支援	○サークル：カラオケ教室、いきいき書道クラブ、レクリエーションサークル ○趣味活動：ビリヤード（延べ1,505名）、マージャン（延べ732名）、囲碁・将棋（延べ327名）
	(3)介護予防事業【※指定管理ではなく、一般介護予防事業において実施】	
	【介護予防の知識の普及啓発、参加促進】	
	健康づくり・介護予防 啓発チラシの配布	健康づくり、介護予防（フレイル予防）に関する啓発チラシの作成・配布
	脳トレプリントの配布	認知機能維持を目的として、数独や漢字ドリル、間違い探しにチャレンジできるよう毎週更新したプリントを配布。
	お口の健康チラシの配 布	口腔機能の維持向上を目的に、啓発チラシ「はっちゃんだより」の作成・配布。
	手洗いの啓発	手洗いチェッカーを活用した啓発をふれあいフェスティバルで実施。
	名張ケンコー！マイ レイジ対象事業登録	マシン・トレーニング教室を対象事業として登録し、より多くの新規の方が介護予防事業に参画できるよう周知・啓発。
	【利用者の状況把握】	
	入館時健康チェックと健康相談	入館時の体調チェック、随時の健康相談対応。 新型コロナウイルス感染症の5類移行により、これまでの体調チェックシートから「入館受付票」に変更し、来場者の検温・体調確認を行った。
	看護学生による血圧測定	学生の実習時に看護学生による血圧測定コーナーを設置。
	介護予防手帳	マシン・トレーニング教室参加者に、フレイル予防に関する取組や身体状況が記録できるよう介護予防手帳を活用いただいた。フレイル意識の向上と参加者の身体状況把握に努めた。

施設効用の最大限発揮(利用促進、利用者増など)に向けた取組	【介護予防の運動、教室の通年開催】	
	一般マシン・トレーニング教室	(基本) 運動器機能向上のための教室(月～金) 210日実施(延べ2,993名) (追加) 教室経験者対象の追加教室 47日実施(延べ84名)
	体力測定	教室参加初日に6種の体力測定を実施(延べ521名)
	スクエアステップ教室	高齢者の介護予防、認知機能向上、体力づくりに効果がある「スクエアステップ」をリーダー(ボランティア)の協力を得て実施。 42日実施(延べ485名)
	ヘルスアップ教室	管理栄養士による「お弁当」づくり教室と講話 1回実施(延べ12名)
	体操の時間	身体機能の低下予防のため、気軽に利用時に体を動かす機会を提供 246日実施(延べ1,682名)
	身体測定の日	握力、体重、身長を測定する日を設定し、健康寿命維持についての啓発機会を提供 1回実施(延べ10名)
	歯科相談の日	口腔機能の維持・向上のため歯科衛生士による歯科相談 3日実施(延べ30名)
	介護教室	介護保険制度に係る講話、福祉機器等の紹介と使用方法を学ぶ機会 5日実施(延べ116名)
	【担い手としての参加促進】	
	カラオケ指導	年24回実施 (延べ24名の協力)
	フレイル予防サポーター	65歳以上の方に一般介護予防事業の「フレイル予防サポーター」となってもらい、担い手としての社会参加の機会を提供。 ・スクエアステップ教室：年41回(延べ80名の協力) ・一般マシン・トレーニング教室：年17回(延べ21名の協力)
	【協力と連携】	
	三重県歯科衛生士会名張・伊賀支部	歯科衛生士と連携し、フレイル予防における口腔ケアについての相談会 3回
	三重県地域活動栄養士連絡協議会	管理栄養士によるヘルスアップ教室 1回
	名張市立看護学校との連携	実習生受入れ 16日間(20名) フレイル予防についての啓発ポスター・リーフレット作成(利用者に配布)
	福祉用具取扱い業者	介護教室実施時の協力(各種用具の提供、説明会等)
	社会福祉協議会内における連携部署	デイサービス事業所：一般マシン・トレーニング教室への協力 居宅介護支援事業所：介護教室実施時の講師及び相談会 ボランティアセンター：フレイル予防サポーター育成とコーディネート
施設の適切な維持管理及び経費節減への取組	当施設設置機器の特性から日常点検を実施。経年劣化した設備、機器の故障や汚損箇所の把握に努めた。日常的な経費削減の取組として、利用時間や利用状況に合わせた節電を実施。	
施設管理を的確に行う人員配置・職員研修等への取組	高齢者や障害者が利用する社会福祉施設であり、日常業務における運営は保健師、介護員(介護福祉士、ヘルパー2級)の資格を持つ職員を配置して、施設管理や相談援助などを行った。 介護予防事業の「マシン教室」の実施においては、「介護予防運動指導員」の資格を持つ介護員、保健師とデイ介護員が連携し実施。「スクエアステップ教室」においても、有資格者がスクエアステップリーダー(ボランティア)の活動支援を行った。 総合福祉センターの防災訓練に参加した。	

3 施設管理者(名張市)評価

指定管理協定に基づく業務を適切に実施いただいている。衛生管理を徹底し、引き続き市民の皆様に安心して利用していただける施設管理・運営を行っていただきたい。今後も利用者への様々な配慮のもと、特に利用者の事業ニーズの把握やその後の効果検証、情報発信などにも積極的に取り組み、より一層のサービス向上に努められたい。

名張市老人福祉センターふれあいの管理に関する業務の収支決算書(令和5年度)

(単位:円)

区分	項 目	予算額	決算額	内訳等
収 入	市受託金収入	26,071,000	26,071,000	老人福祉センター指定管理料
	利用料収入	1,550,000	1,575,950	センター利用料
	補助金事業収入	0	1,333,154	物価高騰対策支援金
	受取利息配当金収入	1,000	60	
	経常経費寄付金収入	10,000	10,000	個人寄付
	雑収入	32,000	32,000	実習謝礼
	収入合計(A)	27,664,000	29,022,164	
事 業 支 出	人件費支出	3,614,000	3,315,280	職員給料 707,613 退職給付引当資産 45,000 職員賞与 189,504 法定福利費 465,543 非常勤職員給与 1,907,620
	事業費支出	23,588,000	23,809,865	水道光熱費 6,195,225 損害保険料 56,000 保健衛生費 11,325 修繕費 49,500 消耗品費 87,449 広報費 59,400 器具什器費 0 業務委託費 16,818,856 賃借料 438,048 教養娯楽費 94,062
	事務費支出	426,000	420,682	福利厚生費 5,795 研修研究費 0 消耗品費 40,763 租税公課 84,353 通信運搬費 42,705 業務委託費等 220,000 手数料 13,963 職員被服費 0 保険料 12,563 雑支出 540
	負担金支出	36,000	36,000	法人税、住民税及び事業税支出
	支出合計(B)	27,664,000	27,581,827	
	収支 (A)-(B)	0	1,440,337	

※予算額は最終補正予算額